



Next creative positive change

～受け継ぐ想いを更なる高みへ～

創立65周年 記念誌

JCI  Junior Chamber International Matsue
公益社団法人 松江青年会議所





CONTENTS

ごあいさつ	2
祝辞	3
松江JCの原像	8
60年のあゆみ	9
歴代理事長名とスローガン	12
2016年度から5年間のあゆみ	13
創立65周年記念事業・記念式典	24
褒賞受賞歴	29
編集後記	30





The Creed of Junior Chamber International

We Believe :

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won by free men through free enterprise;
That government should be of laws rather than of men;
That earth's great treasure lies in human personality; and
That service to humanity is the best work of life

JCI Mission

To provide development opportunities that empower young people to create positive change.

JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens.

JC 宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱領

われわれ J A Y C E E は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

松江JCビジョン

全ての人が松江を更に愛せるよう
運動を展開します。

松江JCミッション

【邁進】

地域の課題を調べ、
解決に向けて果敢に挑みます。

【追求】

地域のリーダーとなるために常に修練を続け、
より良い松江を創造できる人財を増やします。

【縁】

世界と松江の更なる架け橋となり、
地域間交流を促進します。

平成27年12月10日制定
令和2年11月12日改定

松江JCビジョン・ミッション

< 解説 >

松江JCビジョンは、松江青年会議所のあるべき姿です。松江JCビジョンのために、松江JCミッションを実行します。

松江青年会議所は、創立から半世紀以上の長きに渡る先人のご尽力により、松江を素晴らしいまちへと発展させてまいりました。その運動を受け継ぎ、より素晴らしいまちにするために、私達は、地域における多くの課題の中から、私達が取り組むべき課題を選択し、解決に向けて果敢に挑まなければなりません。また、松江という地域の価値を高め、さらに松江を愛する人を増やすためには、私達が率先して行動できる市民となる必要があります。

青年会議所運動において指導力開発(LD)と社会開発(CD)は表裏一体のものです。会員一人ひとりの能力向上を図り、地域に対してリーダーシップを発揮することで社会を前に推し進めていくことが求められています。加えて、我々JAYCEEを超えて、街の抱える課題、未来への可能性について共に考え、松江を更に愛する人々を増やしていくことができれば、より良いまちづくりが可能になります。松江青年会議所がまちづくりのフロントランナーとしてより多くの人々に認知されることで、更なる運動の拡大へと繋げることが松江の価値を高めることにつながります。

松江青年会議所は、強固な結束力、グローバルネットワーク、先人の功績という強みを受け継ぎ、運動を展開しています。この築き上げてきた「繋がり=縁」に加え、青年経済人としての強みを活かすべく積極的にビジネスの機会を模索することで、より深い地域間交流実現の可能性が更に広がります。この不確定な時代だからこそ社会をより良くさせる役割は我々青年であるという自覚を持ち、幅広い視点とアプローチで国内外様々な地域と松江をつなぐ架け橋となることを我々は目指していきます。

ご挨拶



野々村 健志

公益社団法人
松江青年会議所
第66代理事長

「虚無の時が流れ失意の時が去り、そして今われわれは新しい希望と情熱を抱いて出発しなければならぬ時が来たのであります。すなわち、われわれ青年だけが次の時代の方向を決定する力を持っているからであります。」これは松江青年会議所の設立趣意書の一文です。松江青年会議所はこの設立趣意書をもとに、日本で100番目の青年会議所として、広島青年会議所様のご支援の下、1956年に設立されました。そして、本年度で設立から65年という節目の年を迎える事が出来ました。これもひとえに、地域の皆様をはじめ、行政、関係諸団体の皆様、賛助会員の皆様、各地会員会議所の皆様のご支援、ご協力の賜物であります。また、これまでの長きにわたり高い志を持ち、運動を邁進されて来られた先輩諸兄姉である、特別会員の皆様のおかげであります。特別会員の皆様のこれまでの努力、そしてそれに基づく功績に対して心より深く感謝申し上げます。

65周年を迎え、60周年の際に作成した松江JCビジョン・松江JCミッションを見直し、それらを具体的に実現するための中期計画“Joyn” to Matsue を作成しました。世の中は新型コロナウイルス感染症により、大きな影響を受けております。松江青年会議所も同様です。今回の記念式典も形を変えざるを得なくなりました。しかしながら、我々はこのような状況だからこそ、新しい手法にも挑戦しながら、次の時代を見据えた運動を続けていかなければなりません。この中期計画に則り、全ての人が松江をさらに愛せるよう、運動を展開してまいります。

結びとはなりますが、創立以来、これまで松江青年会議所に頂きましたご厚情に感謝を申し上げますとともに、今後とも皆様方のご理解と、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



樋口 拓磨

公益社団法人
松江青年会議所
65周年実行特別委員会
実行委員長

公益社団法人松江青年会議所は1956年、一般社団法人広島青年会議所様のご支援のもと、全国で100番目の青年会議所として誕生致しました。創立以来、65年の永きに渡る先輩諸兄のご尽力により、また、市民の皆様、行政の皆様、関係団体の皆様、各地会員会議所の皆様にお支えいただき、65周年を迎えることが出来ました事、心より御礼申し上げます。

2016年に創立60周年という節目を迎えて、明るい豊かな社会の実現にご尽力された先輩諸兄のこれまでの功績に感謝と敬意を表するとともに、今一度創立の精神に立ち返り、「信念～強い想いが次代を創る、果敢に挑め己を信じて」のスローガンのもと、気概と覚悟を持って、連綿と受け継がれてきた“想い”を継承致しました。

そして、今、私達はその“想い”を次代へと継承していく節目として、65周年を迎えます。“想い”を継承して次の時代を切り開くためには、私達、松江青年会議所が培った強みを最大限に活かした唯一無二の創造が必要です。

創立65周年を迎えるにあたり、受け継ぐ“想い”を更なる高みへと昇華させて次の時代を切り開き、次代へと継承させるべく、創立65周年のスローガンとして「Next creative positive change～受け継ぐ想いを更なる高みへ～」を掲げさせていただきました。

その成果を皆様にお示しする機会と致しまして、廃校となった島根町の野波小学校を舞台に自治体、県内外企業、地元の有志と協力して、松江の魅力伝えて、継続的に松江と関わる関係人口を創出することを目的として記念事業の「2021 JCI Matsue presents Sustainable Space in 島根町」を開催致しました。

公益社団法人松江青年会議所は、今後も時代に合わせ、市民の皆様にも求められる役割をしっかりと果たし、地域の発展に積極的に貢献して参ります。今後とも、関係各位、各地会員会議所、先輩諸兄の温かいご理解とご指導を賜りますよう心からお願い申し上げます。

祝 辞



丸山 達也

島根県知事

公益社団法人松江青年会議所が、このたび創立65周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。松江青年会議所は、昭和31年の設立以来、長きにわたり、文化、経済、環境問題など様々な角度からまちづくりを実践され、「明るい豊かな社会」の実現に多大な貢献をしてこられました。皆様のたゆまぬ努力に深く敬意を表します。

さて、日本経済は新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、依然として大変厳しい状況にあります。県内経済においても同様に深刻な状況が続いており、県としましては引き続き、感染拡大防止、県内経済活動の回復等、新型コロナウイルスへの対応に最優先で取り組んでまいります。

また一方で、人口減少など、島根県が直面する課題は待ったなしであり、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」の実現に向け、県内企業・産業の成長支援により、若い人が意欲をもって働ける魅力ある雇用の場を創出するなど、「島根創生」の取組みを着実に進めてまいります。

ここ松江の地には、豊かな自然や古き良き伝統・文化・歴史、温かみのある人間関係や地域社会などの多くの強みや、国宝松江城など多くの方を魅了する観光資源、ものづくり産業やIT産業などの高度な技術を有する企業、安全・安心に配慮した優れた農林水産品など多彩な地域資源があります。松江青年会議所の皆様には、この松江地域をはじめ、島根の今後を担われるリーダーとして、県の施策に対する一層のご理解と、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、このたびの創立65周年を契機に、公益社団法人松江青年会議所が、益々の発展を遂げられますようご祈念申し上げますとともに、皆様のご健勝をお祈りし、お祝いのご挨拶といたします。



上 定 昭 仁

松江市長

このたび、公益社団法人松江青年会議所が創立65周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

松江青年会議所は、昭和31年の創立以来「明るい豊かな社会」の実現のために、文化・経済・環境など様々な角度から、松江のまちづくりを考え実践してこられました。

去る5月には、宍道湖畔の岸公園で水遊びを楽しむイベント「Matsue SUP Fes!」を主催され、たくさん子どもたちに「水の都・松江」の素晴らしさを届けていただきました。松江市としましても、集い、憩い、楽しめる水辺の空間、ひいては豊かな生活環境を創造するため、積極的に取り組んでまいります。

また、7月に島根町の旧野波小学校で開催された「Sustainable Space in 島根町」では、優れた自然の魅力に着目し、ワーケーションやキャンピングオフィスなど、アフターコロナ時代の新しい働き方をご提案いただきました。松江市では、今後も引き続き松江の持つ地域資源の活用について議論し、その可能性を掘り下げたいと考えています。

加えて、松江青年会議所が2021年度のスローガンと掲げておられる「当事者意識」を共有することで、松江の将来を担うみなさまと一緒に、コロナ禍の難局を克服し、「夢を実現できる松江」「市民が誇れる松江」を導くため、全力を尽くしてまいります。

松江青年会議所が創立65周年を契機として、賑わいと活気にあふれる松江の未来を育むべく、さらなるご発展を遂げられますこと、ならびに会員のみなさまがそれぞれの強みを生かして益々ご活躍されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



田部長右衛門

松江商工会議所
会 頭

公益社団法人松江青年会議所が創立65周年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。

松江青年会議所様におかれましては、昭和31年、全国100番目の青年会議所として設立されました。

歴代の理事長様をはじめ会員の皆様が松江を明るい豊かな社会にしたいという情熱を持ち、文化・経済・環境問題など様々な活動に取り組み、地域の発展に大きく貢献されてきたことに心から敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響が全世界に及び長期化する中、当地域の経済も宿泊、飲食、旅客運送業など人の動きを伴う産業を中心に甚大な影響を及ぼしております。

こうした中、私ども松江商工会議所といたしましては国・島根県・松江市をはじめ様々な組織・団体と連携を図り、地域経済の維持・回復を図るために活動を行っております。特に、昨年から今年にかけては、貴青年会議所にもご協力をいただき、経済団体が協力して「松江GENKI夜市」を開催いたしました。困難な時にこそ、“つながり”を大切に、地域経済回復のため一層連携していかなければならないと考えております。

貴青年会議所が、この度の65周年を大きな節目として、地域活性化の力強い牽引役として未来に誇れる希望に満ちた地域を築いていただきますよう、より一層のご活躍をご期待申し上げます。

結びに、貴青年会議所の今後ますますのご発展と会員の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



野 並 晃

公益社団法人
日本青年会議所
会 頭

公益社団法人松江青年会議所の皆様、日頃より公益社団法人日本青年会議所に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。また、65年という長きに渡り、青年会議所活動を通して、貴地域に多くの価値を創出して来られた事に対しまして、心より敬意を表します。

新型コロナウイルスの猛威により、ニューノーマルな時代の幕開けとなりました。今まで当たり前だった多くの事が当たり前ではなくなり、私たちが向き合うべき社会課題が山積しております。しかしながら、創設より青年経済人の想いを紡いできた公益社団法人松江青年会議所の皆様におかれましては、65周年という記念すべき年である本年度、野々村健志理事長の掲げる「当事者意識 ～考えが変われば行動が変わる 行動が変われば松江が変わる～」のスローガンのもと、受け継がれてきた事業を、移り行く時代背景に適合した事業に形を変え、想いをつなぎ、新たな可能性を切り開き次代に継承されると伺っております。

これまでの常識に捉われず、柔軟な発想で一新された明るい未来を想像できるような運動を発信していただける事にご期待申し上げます。

本会としては、「輝く個が切り拓く 真に持続可能な国 日本の創造」を掲げ、あらゆるカウンターパートと共鳴し、新たな価値を共創し、共感の輪を描く運動を展開してまいります。引き続き本会に対し、深いご理解、ご支援を賜るとともに、大いにご活用頂ければ幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに地域において素晴らしい成果を出されること、先輩諸氏、現役会員の皆様のご多幸、ご健勝を心よりご祈念申し上げます。

Idea & Action 光を放つ起点となろう！

祝 辞



柴田 潤 哉

公益社団法人
日本青年会議所
中国地区協議会
会 長

この度、公益社団法人松江青年会議所におかれましては、創立65周年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。1956年に創立されて以来65年に亘り松江市を中心とした地域の発展にご尽力され歴史を紡いでこられました先輩諸賢の皆様と、その志を受け継ぎ情熱を持って活動されている現役会員の皆様に深く敬意を表します。

松江市といえば山陰最大の人口を誇る都市であり、「水の都」として宍道湖や中海を中心とした豊かな自然に囲まれています。また古くは神話の時代から山陰地方を代表する都市として語り継がれる歴史をもち、国宝である松江城や玉造温泉など観光名所も多く、中国地方でも有数の素晴らしい魅力を持つ地域でございます。昨年から続く新型コロナウイルスの影響がいまなお深く残り、先行きがなかなか見えない状況下ではございますが、この魅力あふれる地域を基盤として、本年度、野々村健志理事長が掲げられますスローガン「当事者意識～考えが変われば行動が変わる 行動が変われば松江が変わる～」、周年事業スローガン「Next creative positive change～受け継ぐ想いを更なる高みへ～」のもと、会員一人ひとりが未来に対して当事者意識を持って力強く運動を推進され、地域を牽引するリーダーとして益々活躍されますことを心よりご期待申し上げます。中国地区協議会といたしましても、大切なカウンターパートであり、何より2022年度には中国地区コンファレンスをご主管いただきます松江青年会議所の皆様と今後も力を合わせて、共に地域の発展と明るい豊かな社会の実現に向けて貢献して参りたいと存じます。

結びに、公益社団法人松江青年会議所のさらなるご発展と、会員皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。



名田 勝 之

公益社団法人
日本青年会議所
中国地区
島根ブロック協議会
会 長

公益社団法人松江青年会議所メンバーの皆様、そして65年にも渡り松江青年会議所並びに地域を守り紡ぎ続けてこられた先輩諸兄の皆様、創立65周年という素晴らしい歴史を刻まれる記念の日を迎えられましたこと心よりお喜び申し上げます。

本年は、野々村健志理事長が掲げられます「当事者意識～考えが変われば行動が変わる 行動が変われば松江が変わる」のスローガンの下、社会の課題を解決するために、様々な運動を展開されておられますこと存じます。今後も松江青年会議所メンバーの皆様が社会の課題に真摯に向き合い、当事者意識を持ち続け、Idea&Actionで松江の地より日本中が輝く光を放つ起点となられますこと、そして松江青年会議所の素晴らしい運動の歩みが進みますよう、ご祈念しております。

島根ブロック協議会では、「自立した個が織りなす 多様性を活かした持続可能な地域島根の創造」の基本理念の下、2021年度の運動を展開しております。ニューノーマルな時代だからこそ、創始の精神を今一度噛みしめ、今の私たちに何ができるのかを考えぬき行動を起し続けること、そして青年会議所のなすべき大義を一人ひとりが忘れることなく、社会の課題解決へ向け今後も運動を展開していくことで、私たちが目指す持続可能な島根を創って参ります。

松江青年会議所が今後も輝かしい活躍の歴史を積み重ねられますこと、先輩諸兄並びにメンバー皆様のご多幸とご健勝、更なる事業の発展を心よりご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



杉川 綾

一般社団法人
広島青年会議所
(スポンサーJC)
理事長

この度は、公益社団法人松江青年会議所が創立65周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。松江青年会議所は、1956年に日本で100番目の青年会議所として設立されて以来、文化・経済・環境問題など様々な観点から松江のまちづくりを考え、まちの発展に多大な功績を残してこられました。明るい豊かな社会の実現に向け、運動を展開し続けてこられた先輩諸兄や皆様のご尽力に、心からの敬意を表します。

本年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、青年会議所活動に困難を来すこともあったかもしれません。こうしたなか、野々村健志理事長が掲げられる「当事者意識～考えが変われば行動が変わる 行動が変われば松江が変わる～」のスローガンのもと、創立65周年記念事業「2021 JCI Matsue presents Sustainable Space in 島根町」をはじめとして、コロナ禍であっても歩みを止めることなく松江をより良いまちに変える数多くの魅力あふれる事業を実施しておられます。この松江青年会議所の皆様の、未知の時代を先駆けていく覚悟は、閉塞感漂う現状を打砕し、松江のまちがこれからも発展を続けていくものと確信しております。また、信念を持って未知の時代に踏み出す皆様のお姿は、次代へバトンを渡すまちづくり運動を目指す私たちにとっても、大きな励みとなります。

これからも、松江青年会議所と広島青年会議所が友情を育みながら互いに切磋琢磨し合うとともに、松江青年会議所と皆様が益々ご活躍、ご発展されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



伊庭 聡

一般社団法人
宝塚青年会議所
(友好JC)
理事長

公益社団法人松江青年会議所が創立65周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。1956年、日本で100番目の青年会議所として創立され、明るい豊かな社会を目指して運動を展開し続けた先輩諸兄のご功績に心からの敬意を表し、また、創始の精神を受け継ぎ日々地域社会に貢献をされておられます現役メンバーの皆様にお祝いを申し上げます。

さて、本年度松江青年会議所は、野々村健志理事長の素晴らしいリーダーシップの下、「当事者意識～考えが変われば行動が変わる 行動が変われば松江が変わる～」のスローガンと共に、まちの未来のために魅力あふれる事業を展開されておられます。また、このコロナ禍であっても松江市長選関連企画「WEB政策発表会考えよう、私たちの未来を」や、宍道湖でのMatsue SUP Fes!、創立65周年記念事業「JCI Matsue Open Innovation ～このまちで何ができるか～」の開催など、現在の、そして未来の松江のために運動に励まれる姿は、我々宝塚青年会議所にとっても模範とするところであります。そのような貴青年会議所と、かつては宝塚青年会議所の基幹事業である青少年セミナーを共同で開催し、また近年は京都会議での合同LOMナイトの開催と、友情を深める機会を度々いただき、大変喜ばしく感じております。貴青年会議所の熱意あふれるメンバーとの交流は、宝塚青年会議所にとっても大いなる励みとなっております。

今後とも、貴青年会議所と宝塚青年会議所とが互いに切磋琢磨し、より一層の友情が深まりますこと、貴青年会議所の運動が未来に向かって大きく花開くことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



與那嶺 泰 輔

公益社団法人
浦添青年会議所
(友好JC)
理事長

公益社団法人松江青年会議所が創立65周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。そして、野々村健志理事長をはじめとするメンバーの皆様におかれましては、「当事者意識～考えが変われば行動が変わる 行動が変われば松江が変わる～」をスローガンに、愛する郷土のために明るい豊かな社会の創造に向け積極的に行動され、松江の地において先輩諸兄姉が紡いで来られた歴史を引継ぎ、素晴らしい功績を残されていますことに心から敬意を表します。

私たち公益社団法人浦添青年会議所と公益社団法人松江青年会議所の友好の歴史は、1978年に青少年育成を目的とした児童交換事業を行ったことが始まりであり、その後も交流が継続され1981年には友好JC締結をさせていただきました。近年でも、毎年の京都会議にて開催されるLOMナイトでは互いに親睦を深め、当青年会議所のメンバーが日本青年会議所に出向を行った際には、貴青年会議所から同委員会にメンバー輩出のご配慮をいただくなど、互いの先輩方が築き上げてきた40年以上の長きに渡る友情と絆は現在まで連綿と繋がれており、当青年会議所にとって大変貴重な財産であり、大きな励みとなっています。

さて、本年は昨年から続く新型コロナウイルス蔓延や自然災害の影響から、多くの人々が健康や仕事に不安を感じ、平時の様に親しい人との繋がりを持たずに大きなストレスを抱えざるを得ない、混沌とした社会情勢の真っ只中となっています。当青年会議所同様に貴青年会議所も、組織を取り巻く社会状況や、各会員の社業や家庭環境の状況により、当初計画されていた事業構築や運動展開が思うように行えていないことと思います。しかし、どの様な逆境においても不安に駆られ停滞するのではなく、自分たちにできることを考え、行動し続けることが我々青年経済人の使命であることから、地域のオピニオンリーダーとして歩みを止めることなく、今解決すべき課題に取り組み、互いが思い描く地域や組織が将来あるべき姿を目指し、共に邁進していきましょう。

結びに、公益社団法人松江青年会議所の皆様が創立65周年をきっかけとし、今後益々ご発展されることと、我々の友好も変わらず続いていくことを心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



松江JCの原像

昭和31年、松江に青年会議所が生まれた。日本青年会議所創立に遅れること5年、わが国はようやく戦後の混乱期を脱し、新しく経済発展の兆しが見えはじめた時期である。すでに松江の若い世代の交流の場として、松江経友クラブが作られていた。その後、広島JCの強力な働きかけもあって、新たに、全国的な組織の下での青年会議所として再生した。

この時期、松江という閉鎖的な地域社会にあって、JCという外に開かれた青年集団が生まれたことは意義深い。「人の人たる所以は人と人との結合にあります。われわれ松江の若い力が、また、努力が

結びついたなら、必ずや新しい力の満ちた推進力となることを確信いたしております。…JCは政治的に無色であり、あくまでも、ヒューマニティに立脚して、まず友情と訓練によって奉仕への道を開くのであります。われわれは優れた個人であると同時に、秀でた良き団体の一員であらねばと思うのであります。…」

これは、松江青年会議所設立趣意書の一節である。松江JCの創生期ともいべき時代は、この小文に示されているように、修練・奉仕・友情という3つの信条を運動の基本理念としていた。



1956
▼
1960

『人』とのつながりの時代

会員の親睦と交流、福祉事業

昭和31年11月、松江青年会議所が誕生しました。この時すでに、若い世代の交流の場として松江経友クラブが組織されていましたが、広島JCの積極的な働きかけもあり、57名のメンバーで認証番号100番目のロムとして発足しました。基本理念に『修練・奉仕・友情』の3つの信条をおき、人と人とのつながりを重点に会員個人個人の人間としての成長を求めていくことが、スタートしたばかりの松江JCにとっての大きなテーマでした。

1961
▼
1965

『めばえ』の時代

JCの綱領の制定、「三信条」から社会開発へ、松江市民憲章

昭和35年の創立5周年の記念すべき年に第10回中国地区大会を主管しました。翌昭和36年には『明るい豊かな社会を築きあげよう』という日本青年会議所の綱領が制定され、その後、市政、県政懇談会、討議会、花いっぱい運動などあらゆる社会開発運動を実施しました。そして、松江JCの呼びかけにより昭和40年に「松江市民憲章」が制定されるなど、三信条を基に社会開発運動への意識が芽生えた時期でした。



1966
▼
1970

『挑戦の時代』

組織固め終了、具体的活動展開

1971
▼
1975

『主張の時代』

社会との関わり、政治・経済

昭和41年、創立10周年を迎え、「社会と人間の開発」というテーマのもと、市民の共感と信頼を得るため本格的な社会開発運動へ参画を始めました。日本青年会議所の様々な活動に呼応して、松江OAAの結成、交通問題、アンケート調査、チャリティーオークションの開催、成人大学、都市の美化運動などが展開されました。

昭和46年には第20回中国地区会員大会を開催しました。この後、市民の共感と信頼を得ることからさらに新たな活動へと展開し、積極的に政治・経済や行政問題に取り組み、松江JCから意見を発信していくようになりました。かけがえのない郷土シリーズの発刊、中海干拓問題への取り組み、JCスクールの開校、行政改革への問題提起など様々な主張がなされました。昭和48年には、発足当時57名だった会員数も100名を超え、松江青年会議所は社団法人となり、そして昭和50年には宝塚青年会議所と友好JCとなりました。



1976
▼
1980

『具体的行動の時代』

市民と継続事業の発生

1981
▼
1985

『継続事業の時代』

事業・組織・こころの硬直化、事業の見直しへ

昭和51年、創立20周年の記念事業として始められた市民まつり『松江だんだん』は、20年間の社会開発運動と指導力開発運動を体系化した事業として、メンバーをはじめ市民にも強く印象づけた事業となりました。同年にはアメリカ・アーバイン JC との姉妹 JC の調印も実現し、従来からの社会開発運動も引き続き発展させる一方、中学生の沖縄洋上セミナーなど青少年の健全育成という『ひとづくり』が展開されました。

着実に地域に認識される存在となり、そして60年代への指針として、『松江市は新観光都市を目指し、松江 JC は政策行動集団たれ』という提言がなされました。



1986
▼
1990

『まちづくり』の時代

社会開発から「まちづくり」へ／まちの特性・個性・郷土愛

1991
▼
1995

『広域ネットワーク』の時代

松江のまちづくりから広域的なまちづくりへ

創立30周年を迎え、新たなまちづくり運動をスタートし、創立30周年の記念行事として開催した『タウンミーティング・イン松江』をきっかけに『まちづくり懇話会』を実施しました。また、前年創立された隠岐 JC との交流を通して、会員同士の交流と資質の向上に大きな効果がありました。昭和62年には第36回中国地区会員大会の開催や昭和63年、第14回島根ブロック会員大会なども開催されました。平成元年には市制施行100周年を記念して松江市より事業委託を受け、中学生のヨーロッパ海外派遣等を実施し、内外より高い評価を受けました。その後も『まちづくり、ひとづくり』という大きなテーマを基に、官民一体となった社会開発運動を展開していきました。また、中海・宍道湖淡水化反対運動を展開したのもこの頃でした。

創立35周年に打ち出した『インフィニティーネットワーク構想』に基づき、松江のまちづくりから、中海・宍道湖圏域の広域的なまちづくりへと進んでいきました。平成6年には初の全国規模の大会である『全国城下町シンポジウム松江大会』を主管開催。平成7年には県境をまたぐ米子・境港・安来・松江の4JCによる合同例会の開催。そして平成8年には『4JC 中海アクション会議』をスタートさせました。先駆的な『広域ネットワーク』への取り組みが実践された時代です。





1996
▼
2000

『真の価値観』創造の時代

Jayceeとしての誇りを持ち、そしてまちづくりから人（こころ）づくりへ

2001
▼
2005

『改革・融合』の時代

このまちの将来とJCの本質を見つめ直す

創立40周年を迎え、宍道湖・中海圏域の広域的なまちづくりの流れを汲み「連携から融合へ～新和のくにづくり～」を提言し、この地域の新しい価値の創造に向けた活動が展開されました。記念事業として、他の地域との連携を目的にした「松江・宝塚青少年交流」、「天神神輿・琉球國祭太鼓」の開催、「中海・宍道湖圏域ネーミング公募」等、地域のつながりを意識した事業が多く実施されました。この広域化の流れは後の平成の大合併に繋がる布石的な活動となり、徐々に市町村合併に向けた議論が松江JC内部でも活発にされるようになりました。

また、西暦が2000年代になり、平成の大合併により新松江市となった節目のこの時代は、松江JCの在り方についても活発に議論がされました。特に平成12年からは公益法人制度改革を見据えた会計処理や事業運営の改革が実行され、この流れは後に「公益社団法人格取得」という決断に繋がっていきます。



2006
▼
2010

『継承・進化』の時代

先人に感謝し、志の継承を誓い、公益法人格取得へ向けて新たな一步を踏み出した

2011
▼
2015

『脱皮の時代』

組織と人が新たな一步を踏み出した

創立55周年を迎えた平成23年3月11日、東日本大震災が起り、島根ブロックとして復興支援に多くの会員が向かい、災害と向き合う年としてスタート致しました。周年事業も、地域から復興をという思いから「ヒートフラッグス2011」を行い、松江で活動されている同じ志を持つ同年代の方々と実行委員会を結成し、大規模な事業を実施しました。

平成25年度には、松江市長選挙に併せて公開政策発表会を行い、市民にリーダーを自ら決めて頂く為の、大きな機会を提供しました。

また、平成12年から続けてきた公益法人格移行に向けた活動がようやく実り、平成26年に公益社団法人に移行し、新たな組織として歩み出しました。



歴代理事長とスローガン

(※初代～第10代までは日本JCスローガン)

1	初代理事長 松崎 定夫 先輩	青年の力で新しい社会を
2	第2代理事長 松崎 定夫 先輩	世界を結ぶ青年の力
3	第3代理事長 松崎 定夫 先輩	若い力で経済建設
4	第4代理事長 伊原 周造 先輩	JCの力で築こう明るい社会
5	第5代理事長 松崎 定夫 先輩	JCの一人一人が社会の希望
6	第6代理事長 長谷川潤一 先輩	JCは明日の世界の道しるべ
7	第7代理事長 山久瀬茂夫 先輩	経済の正しい成長になえJC
8	第8代理事長 皆美 健夫 先輩	世界の若さで結べ世界は一つ
9	第9代理事長 川本 正明 先輩	新時代築く若さと指導力
10	第10代理事長 泉 昭夫 先輩	福祉国家創るさきが果せJC
11	第11代理事長 西村 邦彦 先輩	10周年を認識しよう
12	第12代理事長 野々村 卓 先輩	JCマンとしての認識を新たにしよう
13	第13代理事長 岩田 篤明 先輩	行動で示そうJCの力
14	第14代理事長 宮脇 正夫 先輩	JCの英知で拓け松江の未来
15	第15代理事長 佐藤 充男 先輩	Jayceeと市民で築け70年代の松江
16	第16代理事長 泉 完次 先輩	Jayceeの行動で呼び起そう市民の共感
17	第17代理事長 仙田 一恭 先輩	豊かな環境、繁栄する社会、 挑戦しよう若い力
18	第18代理事長 山本 隆志 先輩	共に考え行動しよう このかけがえのないふるさとのために
19	第19代理事長 山久瀬正樹 先輩	明日のために 一勇気ある提言、果敢な行動
20	第20代理事長 小西 佐助 先輩	示せ Jaycee若さの資質 総意で築け郷土の未来
21	第21代理事長 内藤 守 先輩	高めよう自立と連帯 踏み出そう新しい一歩を
22	第22代理事長 松崎 健二 先輩	挑戦しよう意識の改革に みきわめよう地域の礎を
23	第23代理事長 山下 裕國 先輩	高めよう連帯と行動力 築こう活力ある故郷を！
24	第24代理事長 荒木文之助 先輩	見て聞いて考えて、さあ翔べ松江JC
25	第25代理事長 田中竹次郎(征二郎) 先輩	この時を君がやらねば誰がやる 果敢な行動連帯感
26	第26代理事長 安井 昭雄 先輩	自らに問いかけ共に築こう活力ある松江
27	第27代理事長 山下 武之 先輩	次なる時代へ 一勇気ある提言、価値ある行動
28	第28代理事長 中澤 強 先輩	“和” 一築こう集い 広げよう豊かな心を
29	第29代理事長 泉 謙吉 先輩	熱意と行動で築こう まちのハーモニー
30	第30代理事長 竹下 三郎 先輩	考えよう信頼と責任 創ろう新時代への架け橋
31	第31代理事長 櫻井 誠己 先輩	興せ 地域の波 こぎ出そう 新たな時代の出発(たびだち)へ！
32	第32代理事長 伊原 正人 先輩	考えよう 人、街、歴史 調和のとれた 未来社会のために
33	第33代理事長 西村 康 先輩	エンジョイ JC 企業に 社会に！

34	第34代理事長 野々村健造 先輩	確かな行動 創ろうひとの心とまちの顔
35	第35代理事長 伊藤 整 先輩	時代はJC 自立した ひと・まち・こころで日本(くに)づくり
36	第36代理事長 安島 壮 先輩	「分限から創造へ」 広げよう21世紀へのWA
37	第37代理事長 古志 勝俊 先輩	ありますか! まちの危機意識 もってますか! まちの誇りを
38	第38代理事長 佐藤 尚士 先輩	MOVE! 松江を愛する人のために
39	第39代理事長 昌子 一郎 先輩	元氣よく 育もう青年の夢を うたおう 松江の応援歌
40	第40代理事長 皆美 佳邦 先輩	今 変革のとき 決断と行動 つなげよう 時代と次代
41	第41代理事長 神田 幸信 先輩	“為せば成る!” あふれる若さと情熱で
42	第42代理事長 竹田 宏一 先輩	第2の創立期 研こうJCスピリット 創ろう新和のくにづくり
43	第43代理事長 安達 亨 先輩	—Guts— 時代を感じて
44	第44代理事長 景山 直観 先輩	一生懸命 ～笑顔と思いやりあふれる 共創社会をめざして!
45	第45代理事長 三谷 栄司 先輩	堂々と語ろう! わたしたちの夢を とことん動こう! 未来の子供達のために
46	第46代理事長 仙田 利夫 先輩	Link Our Wishes 我々の力で夢をかなえよう
47	第47代理事長 杉原 有 先輩	SOUL魂 JCイズム継承 届け地域へのアグレッシブメッセージ
48	第48代理事長 山口 慎二 先輩	～このまち きらきら～
49	第49代理事長 加納 孝通 先輩	先見 ～CHALLENGE FOR THE FUTURE!～
50	第50代理事長 後藤ヒロシ(裕志) 先輩	感動 感動が、まちの『チカラ』
51	第51代理事長 尾崎 俊也 先輩	情熱 ～Passion, Challenge and Change～
52	第52代理事長 太田 敦久 先輩	大好き この松江 この人
53	第53代理事長 木村 純子 先輩	忘己利他 ～心の通い合う まちの創造を目指して～
54	第54代理事長 池淵 正浩 先輩	一致団結 ～このまちから 必要とされるJCを目指して～
55	第55代理事長 金見 誠司 先輩	もう一歩前へ ～強く、そして確かに～
56	第56代理事長 坪倉 大吾 先輩	ONE JC ～強い“熱(ねつ)”をこのまちへ～
57	第57代理事長 紅花 昌秀 先輩	響 ～心に響け郷土への想い! 地域に響け若者の躍動!
58	第58代理事長 天野 正道 先輩	万里一空 ～明日の松江に向かって歩む～
59	第59代理事長 田中 康博 先輩	息 ibuki 吹 若き情熱を胸に ～すべてはまちの笑顔のために～
60	第60代理事長 本庄 雅樹 先輩	誰がために ～大局的な視点を持ち地域に耳を傾ける～
61	第61代理事長 秋鹿 修 先輩	心・信・真 ～心のままに信じたことが真実になる～
62	第62代理事長 西村 圭介 先輩	真剣 ～このまちの為に、心揺さぶる真のJayceeとなれ～
63	第63代理事長 古藤 雅之 君	REACH FOR THE STARS ～可能性を信じ、そして自らを信じて～
64	第64代理事長 福島丈太郎 君	継続 ～千里の道も一歩から～
65	第65代理事長 持田 寿人 君	知行合一 ～まちの為に動き続ける～
66	第66代理事長 野々村健志 君	当事者意識 ～考えが変われば行動が変わる行動が変われば松江が変わる～

5年間のあゆみ

2016▶2020

『継承・昇華・変貌』の時代

～先人からの想いを継承、そして昇華させ、新たな時代へと挑む～

創立60周年を迎え、宍道湖を活用した広域的なまちづくりの流れを汲み、記念事業として「まつえ水都祭 2016」を開催し、水辺を活用したまちづくりについて再認識するきっかけとなりました。

平成29年度には、松江市長選挙に合わせ、公開討論会を開催しました。公職選挙法の改正により20歳以上から18歳以上に選挙権年齢が引き下げられ、初めて松江で開催される首長選挙であったことから、公開討論会に先立ち、主に若い世代の方々に向けたワークショップを開催し、次代の松江を担う世代に、自身の住み暮らすまちに対して目を向けていただくための機会を提供しました。

平成30年には「叡智～古今城下町、次代への継承～」のスローガンのもと、「第37回全国城下町シンポジウム松江大会」を開催しました。松江に古くからある優れた歴史・伝統・文化をしっかりと現代に、そして、次代へ繋げていくための大規模な事業を実施しました。

そして2019年5月1日から、年号が「平成」から「令和」に代わり、令和元年がスタートしました。松江JCミッションにもあるように、世界と松江の架け橋となるため、ベトナムのHanoi JCと交流を深め、両国を行き交い、お互いの国を知り、事業に参加し合う交流の末に姉妹JCとしての調印への大きな一歩を踏み出しました。

しかし同年12月に新型コロナウイルスが発生し、翌年には世界中でパンデミックとなり、我々の生活も一変しました。

2020年、青年会議所運動にも様々な制限がかかる中、停滞した市内経済を動かすため、行政や関連団体と連携し「松江 GENKI 夜市」を実施しました。新型コロナウイルス感染症が社会の歯車を大きく変えたこの年、この地域を牽引する青年世代としての姿を地域に示しました。



第61代理事長

秋鹿 修 先輩

昭和52年8月4日生まれ
(株)コーアガス島根
 専務取締役

- ▶ 日本JCスローガン：強く優しくしなやかにあらゆる価値の根源となれ！
- ▶ 松江JCスローガン：心・信・真～心のままに信じたことが真実になる～
- ▶ 正会員数：40名

役員

- ▶ 直前理事長：本庄雅樹
- ▶ 副理事長：梶谷浩志 足立和昭 西村圭介 宮脇大祐 古藤雅之
- ▶ 専務理事：山代正隆
- ▶ 理事：樋口拓磨 福島丈太郎 持田寿人 小林正康 石倉達也 権田友和
堀尾公隆 内田浩平
- ▶ 監事：天野正道 石川弘司 平塚洋介

2016年を振り返ってみますと、世界各地でテロが多発し、世界平和には程遠い状況でした。また国内では東京都知事に小池百合子氏が就任しましたが、築地市場の豊洲移転など問題は山積みであり、また障害者施設で多数の入居者が刺殺されるといった暗いニュースも多く、熊本と鳥取では大きな地震に見舞われました。そのような中、リオデジャネイロオリンピックでは日本選手のメダルラッシュに沸くなど、明るい話題もありました。

松江青年会議所におきましては創立60周年という大きな節目を迎えた年であり、「心・信・真～心のままに信じたことが真実になる～」をスローガンに掲げ、メンバーが一丸となって様々な運動を行って参りました。

1. 創立60周年を迎え

2016年は松江青年会議所創立60周年という記念すべき年であり、県内外各地へキャラバンを行いました。3月度例会では50周年、55周年を振り返り、信念を持って歩みを進めるきっかけとなりました。本番当日10月1日には「夢があるから強くなる」のテーマで川淵三郎氏にご講演いただき、来場者にも強い信念が醸成されるきっかけとなりました。記念式典・祝賀会においては、来賓の皆様、各地青年会議所の皆様、そして先輩諸兄に感謝の気持ちをお伝えするとともに次代の松江に対する提言をさせていただきます。また100%例会を達成し、すべてのメンバーで事業を成し遂げました。

2. このまちの未来のために

このまちの未来を創造することは我々青年の責務です。市民、行政、関係諸団体と連携し、賑わいの創出、まちづくり事業を展開して参りました。6月度例会では、環境に配慮した祭りの実現に向けて委員会発表を行い、それを踏まえて7月度第2例会の松江だんだんでは、ゴミに対する意識向上のきっかけとなりました。

そして9月度例会では、60周年記念事業として「まつえ水都祭2016」を開催しました。当日は、多くの市民が宍道湖に集い、サップ、釣りなどを楽しみ宍道湖に触れていただきましたが、我々の目的は、継続して市民の

皆様が水辺を活用し賑わいを創出し続けることですので、今後は関連団体と共に協議していかねばなりません。

3. 青年会議所運動の継続

明るい豊かな社会の創造を実現するためには青年会議所運動を絶え間なく継続していかねばなりません。そのためには運動を進めていく「人」が必要であり、また会員の資質向上と会員の拡大の両輪を考えねばなりません。5月度例会では会員の資質向上を目的とした事業を開催しました。世界との架け橋となる人財の育成も視野に入れていかねばなりません。

会員拡大につきましては、特別会員訪問、異業種交流会、そして島根ブロックの拡大委員会とも連携し活動をして参りました。会員拡大は、すべてのメンバーが当事者意識を持つことが必要です。

4. 公益社団法人として

先輩諸兄の並々ならぬ努力のおかげで2014年に公益社団法人格を取得して以来、未だ手探りなどところがあることは否めません。総務・広報委員会を中心に定款及び提出書類の整備を進めていただいたとともに、財務の安定化のため賛助会員制度も2017年からスタートできるようにしました。会費収入のみに頼らず、今後も最善の方法を模索していかねばなりません。

5. 出向者支援について

2016年度は日本青年会議所、中国地区協議会、島根ブロック協議会、6JC経済文化交流会、そして全国城下町青年会議所連絡協議会と、総勢13名のメンバーに出向していただきました。松江青年会議所を代表して出向していただきましたメンバーの皆様にはそれぞれの抱いを全うしていただき、自己成長そして多くの友情を得られたことだと思います。各事業に多くのメンバーが積極的に参加していただき、「事業への参加こそが1番の出向者支援」ということを実践していただいたことに深く感謝申し上げます。



主な活動一覧

	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会（賀会例会） 異体同心 ～一丸となって2016年度を力強く進め！～	1月7日	会員力向上委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会 第166回定時総会	2月18日	総務・広報委員会
3月度例会 【対内事業】	3月度委員会事業 温故知新 ～熱い想いを知り、新たな次代を生む～	3月17日	60周年実行特別委員会
4月度例会 【対内事業】	4月度例会 松江の未来創造講演会 水都松江の魅力を考えよう	4月21日	松江の未来創造委員会
	第167回臨時総会	4月25日	総務・広報委員会
5月度例会 【対内事業】	5月度例会 世界の架け橋となる人財へ	5月19日	会員力向上委員会
6月度例会 【対内事業】	6月度例会 きれいな祭りを目指して	6月25日	松江だんだん委員会
7月度第1例会 【対内事業】	7月度第1例会 一致団結！ ～創立60周年へのカウントダウン～	7月21日	60周年実行特別委員会
7月度第2例会 【対外事業】	松江水郷祭（松江だんだん） 湖と緑のフェスタ 松江だんだん 2016 つくろう笑顔の祭り、目指そう綺麗な祭り	7月29日～31日	松江だんだん委員会
8月度例会 【対内事業】	8月度例会 第168回定時総会	8月18日	総務・広報委員会
9月度例会 【対外事業】	9月度例会 創立60周年記念事業 まつえ水都祭2016 来てみてさわって遊ぼうしんじ湖！	9月3日	松江の未来創造委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会 創立60周年 記念講演、記念式典、記念祝賀会 信念 ～強い想いが次代を創る、果敢に挑め己を信じて～	10月1日	60周年実行特別委員会
10月度委員会事業 【対外事業】	水燈路関連事業 Let's 縁 joy YAKUMO festa ～八雲が繋ぐアイルランドとの縁～	10月29日	総務・広報委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会 卒業式式典 継往開来 ～思いの継承そして新たな旅立ち～	11月27日	会員力向上委員会
	11月度例会 卒業式祝賀会 報恩謝徳 ～感謝の気持ちを込めて～		松江だんだん委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会 第169回定時総会・渡鍵式	12月8日	総務・広報委員会



まつえ水郷祭2016



創立60周年記念式典



第62代理事長
西村 圭介 先輩
昭和53年1月28日生まれ
アースサポート(株)
取締役管理本部長

- ▶ 日本JCスローガン：自己成長を求め「日本道」を歩もう 「日本を変えるのはオレたちだ!!」
- ▶ 松江JCスローガン：真剣～このまちの為に、心揺さぶる真のJayceeとなれ～
- ▶ 正会員数：40名

役員

- ▶ 直前理事長：秋鹿 修
- ▶ 副理事長：宮脇大祐 堀尾公隆 福島丈太郎 古藤雅之 持田寿人
- ▶ 専務理事：小林正康
- ▶ 理事：内田浩平 石倉達也 木村真澄 内部高志 福原一裕 糸原資也
石倉英弥 林 法正 樋口拓磨
- ▶ 監事：足立和昭 権田友和

第45代アメリカ合衆国大統領にトランプ氏が就任し幕を開けた2017年も、世界各地で紛争やテロが後を絶たず、我が国においては、北朝鮮の度重なる弾道ミサイルの発射や核実験の強行、大きな被害をもたらした九州北部豪雨災害、度重なる台風の襲来等、自然災害の脅威と、常に国民の生命、財産が危機に晒される状況が続いています。

また、東京オリンピック開催に向けた景気の高揚感も都市部に留まり、地方においては、決して明るい兆しを感じることもできない1年でありました。そのような中、19年ぶりに日本人横綱誕生など明るい話題も多くみられた1年でもありました。そして、再来年に決まった天皇陛下の退位という平成の終焉と相まって、一つの時代が終わるといふ歴史的な節目に対する不安感を少なからず国民は抱えているのではないのでしょうか。そのような中、2017年度公益社団法人松江青年会議所は、「真剣～このまちの為に、心揺さぶる真のJayceeとなれ～」をスローガンに掲げ、私たちが真剣に運動を行えば、人が変わり、そしてまちが変わると信じ、1年間、様々な運動を展開してまいりました。

1. 第37回全国城下町シンポジウム松江大会に向けて

「2017年度で大会構築のすべての準備を終える」という覚悟を持って、現役メンバー丸となって準備を進めていくことを宣言しスタートした準備は、全国城下町青年会議所連絡協議会通常総会でのPRを皮切りに、過去の松江大会と直近の福井大会から学びながら、第37回松江大会をどういった大会にすべきか協議をしました。また、10月のJCデーでは特別会員の皆様に対し、力強く第37回松江大会のPRを行いました。いよいよ迎える2018年度の大会本番では、単に大会を構築するのではなく、このまちの未来を創るという強い気概を持って挑んでまいります。

2. このまちの未来のために

人口減少問題に立ち向かうべく、市民を牽引していく強力なリーダーの誕生を願い、4月に行われた松江市長選挙に合わせ、松江市長選挙立候補予定者公開討論会を開催しました。また、選挙権年齢の引き下げ後、松江初の首長選挙であったことから、若年世代の主権者教育を目的としたワークショップを開催しました。一方、人口減少問題の解決には、その根本的な原因である進学、就職等による人口の流出に歯止めをかける必要があります。9月度例会では、学生に、松江の優良企業の取材と中国地方各地の学校への情報発信をしていただき、松江の魅力を学んでいただきました。今後も引き続き松江の魅力を掘り起こし、これからもこのまちのために運動してまいります。

3. 市民のための賑わいを

「市民のための、市民の手による、市民が主役の祭り」という創始の精神に立ち返ることを目指し、本年度も松江だんだんを開催しました。昨年に続き、エコステーションによるリユ-

ス食器の回収、ステージ運営、各種体験ブース、飲食ブースを行いました。本年度は、設営スタッフとして市民の皆様積極的に参加をしていただきました。

その結果、来場者、設営スタッフとして参加をいただいた皆様のたくさんの笑顔を見ることができ、「笑顔溢れる松江だんだん」を実現することができたと実感しています。私たちJCメンバーはこれからも創始の精神を忘れずに、市民のための祭りであり続けるよう松江だんだんを開催してまいります。

4. 真のJayceeとして

「時代は移り変われど、いつの時代も私たちJayceeは変革の能動者として、その地域を牽引する存在である。」このことは、決して変わらない普遍的な原理原則として、私たちは後進にその存在意義をしっかりと継承していかなければなりません。これを受け、本年度は「真のJaycee」の育成に注力してまいりました。

これからもJC運動を通じて多くの良い出会いを重ね、たくさん心を揺さぶられ、心を鍛え、一人でも多くの真のJayceeが、松江青年会議所から生まれることを心から願っています。

5. 会員拡大こそがJC運動

「会員拡大こそがJC運動である」と公言し、会員拡大は全メンバーの使命として一年間会員拡大に取り組んでまいりました。初めての試みとなる女性限定の異業種交流会を含む6回の異業種交流会を開催したことも功を奏し、12名という近年では突出した人数の新入会員を迎えることができたことは、大変ながらも様々な新たな試みに積極果敢にチャレンジした成果であります。

これからも「会員拡大こそがJC運動である」という強い自信と誇りを持ち、会員拡大を続けてまいります。

6. 公益社団法人としての強みを生かして

本年度の松江青年会議所は法人の安定的な運営を目指し、新たな収入源を確保する手段について学ぶ機会を設けました。

これまで獲得してきた補助金や助成金の情報を共有し、これまで取り組んだことのない手法として、新たに寄付金収入やクラウドファンディングについて学びました。次年度以降も新たな手法を積極的に実行し、松江青年会議所を将来に渡りしっかりと継承できるよう努めてまいります。

7. 出向を通じて得られる機会

本年度も会員の約3分の1にあたる多くのメンバーの皆様に出向をしていただきました。出向された皆様は、それぞれの出向先で、人との出会いから多くを学び、訪れた先々のまちから多くの気づきを得られたのではないのでしょうか。その経験が、これからの松江のまちづくりに大いに役立つ日がきっと訪れます。そのことを信じ、松江の未来のためにも、これからも積極的に出向をして、機会を掴んでまいります。



主な活動一覧

	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会（賀会例会） 一生懸命 ～真剣に向かい合う～	1月10日	松江だんだん委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会 第170回定時総会	2月16日	総務・広報委員会
3月度委員会事業 【対内事業】	3月度委員会事業 和敬静寂	3月5日	真の Jaycee 育成委員会
3月度例会 【対内事業】	3月度例会 知って備える全国城下町シンポジウム	3月17日	全国城下町シンポジウム準備委員会
4月度例会 【対外事業】	4月度例会 松江市長選挙立候補予定者公開討論会 私たちが拓くまつえの未来！	4月6日	地域のリーダー発掘委員会
4月度委員会事業 【対外事業】	4月度委員会事業 女性拡大交流会	4月28日	真の Jaycee 育成委員会
5月度例会 【対外事業】	5月度例会 次代担うビジネスリーダーに求められる覚悟	5月24日	真の Jaycee 育成委員会
6月度例会 【対内事業】	6月度例会 変わらないために変わる	6月15日	総務・広報委員会
7月度例会 【対内事業】	7月度例会 発進！ ～第37回全国城下町シンポジウムに向けて～	7月10日	全国城下町シンポジウム準備委員会
8月度第1例会 【対外事業】	松江水郷祭（松江だんだん）湖と緑のフェスタ 松江だんだん 2017 笑顔が溢れる松江だんだん	8月4日～6日	松江だんだん委員会
8月度第2例会 【対内事業】	8月度第2例会 第171回定時総会	8月17日	総務・広報委員会
9月度例会 【対外事業】	9月度例会 あなたが創る松江の未来 撮ってひろげる松江の魅力	9月14日	地域のリーダー発掘委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会 第61回JCデー 次代への継承 ～全城松江大会に向け～	10月6日	真の Jaycee 育成委員会
10月度委員会事業 【対外事業】	水燈路関連事業 日・アイルランド外交関係樹立60周年記念事業 Green An-don Workshop (グリーン・アンドン・ワークショップ)	10月7日	全国城下町シンポジウム準備委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会 卒業式式典・卒業式祝賀会 繋ぐ思い。新たな旅立ち・新たな決意	11月18日	松江だんだん委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会 第172回定時総会・渡鍵式	12月7日	総務・広報委員会



私たちが拓くまつえの未来！



松江だんだん 2017



第63代理事長

古藤 雅之 君

昭和56年9月9日生まれ
(株)大前組
 取締役

- ▶ 日本JCスローガン：「和」の精神性が導く 愛と希望溢れる国 日本の創造
- ▶ 松江JCスローガン：REACH FOR THE STARS～可能性を信じ、そして自らを信じて～
- ▶ 正会員数：42名

役員

- ▶ 直前理事長：西村圭介
- ▶ 副理事長：内部高志 小林正康 福島丈太郎 持田寿人
- ▶ 専務理事：樋口拓磨
- ▶ 理事：福原一裕 内田浩平 林 法正 影山瑛一 石倉達也 石倉英弥
 木村真澄 佐藤友馬 中村友樹
- ▶ 監事：権田友和 宮脇大祐 堀尾公隆

2018年度を振り返りますと、まず思い浮かぶのは「災害」の2文字でした。我々の所属する中国地区協議会の仲間の地域でも、平成最悪となる水害により多くの被害が発生し、また島根県の大田市内を中心に地震の被害もありました。台風21号、24号が日本列島を縦断して関西国際空港が閉鎖する等、全国各地にも大きな爪痕を残しました。世界に目を向けますと、韓国と北朝鮮による南北首脳会談、米国と北朝鮮による米朝首脳会談等がありました。

スポーツ界では、日大のタックル騒動、ボクシング連盟の不祥事、パワハラ問題等の暗い話題が頻発致しましたが、平昌五輪、サッカーワールドカップロシア大会、大坂なおみ選手による日本人初4大大会制覇等、日本中が歓喜に沸いた年でもありました。

松江青年会議所においては、24年ぶりに第37回全国城下町シンポジウム松江大会、10年ぶりに島根ブロック大会を主管した年でありましたが、メンバー丸となり「REACH FOR THE STARS～可能性を信じ、そして自らを信じて～」のスローガンのもとで事業を完遂致しました。

1. 第37回全国城下町シンポジウム松江大会

全国城下町シンポジウム松江大会のスローガンを「叡智～古今城下町、次代への継承～」として、松江に古くからある優れた歴史・伝統・文化をしっかりと現代に、そして、次代へ繋げていく事こそが我々に求められていると強く思い、大会を構築してまいりました。多くの企業や団体、応援して頂いた特別会員の皆様のお力添えのお陰をもちまして、無事に3日間の大会を終えることができた事に改めて感謝を致します。

また、この大会で得た多くの経験や様々な方々との繋がりは、松江青年会議所にとって大きな財産となりました。大会後の9月度例会では、関係者をお招きして協議会の設立も行いました。

2. 第44回島根ブロック大会の開催

10年ぶりに島根ブロック大会を主管致しましたが、メンバー丸となり、島根ブロック内の会員協議所の皆様に招いて開催することが出来ました。当初、式典の後に祝賀会の開催を予定していましたが、西日本豪雨災害の直後という事もあり、開催の是非を考慮致しました。祝賀会を交流会として開催して、多くの来賓や特別会員の皆様のお力添えもあり、滞りなく終えることができました。

交流会においてはブロック会長と理事長の皆様による書道のパフォーマンスを企画して、メンバー同士の絆を深める事ができました。

3. 賑わいをみつけて

松江青年会議所の継続的な目玉事業の「松江だんだん」の開催と共に課題をしっかりと抽出して見つけ直す事を位置付けました。4月度担当例会ではメンバー全員で議論をして課題の解決に挑みましたが、良いアイデア等が出る一方で、一筋縄ではいかない結果でした。しかし、水郷祭推進会議の会長を訪問した事で、今後の水郷祭、松江だんだんの課題の解決に向けて一石を投じることができました。

4. 全員で会員拡大・そして地域の未来へ

会員拡大・研修委員会を先頭に、メンバーの尽力もあり、11名の会員拡大に成功致しました。その反面、多くの退会者が発生致しました。例年にはない大きな事業を抱えた中で、メンバーの個々の負担は間違いなく大きな年でした。細やかなフォローができなかった事は、今後の課題として残りました。

5. 公益社団法人の強みと課題の精査

2014年に公益社団法人に移行して数年が経ちました。毎年手探りをしながら運営を行っていますが、公益法人のメリットを活かしきれていない状況が続いています。公益法人へ移行する際に掲げた目標を今一度見直した上で、我々が公益社団法人という自覚を持ち、その強みを見出すことは常日頃から必要な事です。引き続き様々な情報を共有して、公益社団法人としての強みを最大限発揮できるよう努めていく必要があります。

6. 出向者支援について

2018年度は日本青年会議所をはじめ総勢12名のメンバーに出向していただきました。松江青年会議所を代表して出向していただいたメンバーの皆様には、それぞれの抱いを全うして成長されて、そして、多くの友情を得られたと思います。また、事業に参加する事が一番の出向者支援だと伝えてきましたが、多くのメンバーに実践していただきました。さらに、そこから学びや気づきを得ることができて良かったと思います。



主な活動一覧

	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会（賀会例会） Challenge myself ～挑戦己を成長させよう～	1月10日	ブロック大会運営委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会 第173回定時総会	2月15日	総務・広報委員会
3月度例会 【対外事業】	3月度例会 古賀稔彦氏講演会 「夢の実現」～挑戦することの大切さ～	3月15日	会員拡大・研修委員会
4月度例会 【対内事業】	4月度例会 この先の水郷祭・松江だんだんを見据えて。今、動き出そう	4月2日、 4月25日	松江だんだん委員会
5月度例会 【対外事業】	5月度例会 第37回全国城下町シンポジウム松江大会 叡智～古今城下町、次代への継承～	5月19日	全国城下町シンポジウム実行委員会
5月度例会 【対外事業】	第37回全国城下町シンポジウム松江大会第一分科会 不昧公没後200年祭関連事業 「文献から読み解く不昧公の遺した茶の湯の文化」	5月19日	総務・広報委員会
5月度例会 【対外事業】	第37回全国城下町シンポジウム松江大会第二分科会 堀川関連事業「甦れ！松江城の隠れた観光地」	5月13日、 5月19日	松江だんだん委員会
5月度例会 【対外事業】	第37回全国城下町シンポジウム松江大会第三分科会 「まつえ水都祭2018」城下まち歩きで松江を満喫しよう！	5月19日	ブロック大会運営委員会
5月度例会 【対外事業】	第37回全国城下町シンポジウム松江大会第四分科会 古今城下町体感ツアー～そして未来の城下町の創造へ～	5月19日	会員拡大・研修委員会
6月度例会 【対内事業】	6月度例会 ～一人ひとりが考え行動し、そして主役となれ～	6月21日	会員拡大・研修委員会
7月度例会 【対内事業】	7月度例会 第44回島根ブロック大会 一期一会～総和でつなぐ島根ブロック大会～	7月15日	ブロック大会運営委員会
8月度第1例会 【対外事業】	松江水郷祭湖と緑のフェスタ松江だんだん2018 真夏のテーマパーク！水と食の松江だんだんフェス！	8月3日～5日	松江だんだん委員会
8月度第2例会 【対内事業】	8月度第2例会 第174回定時総会	8月16日	総務・広報委員会
9月度例会 【対外事業】	9月度例会 提言～「次代へ繋げる！松江の叡智創造協議会 MATSU 叡智」	9月21日	全国城下町シンポジウム実行委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会 第62回JCデー 「繋ぐ」	10月1日	松江だんだん委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会 2018年度（公社）松江青年会議所卒業式 旅立ち～引き継ぎし熱き思い～	11月11日	ブロック大会運営委員会
	2018年度（公社）松江青年会議所卒業式祝賀会 Happy Graduation Day! ～完全燃焼した男たち～	11月11日	会員拡大研修委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会 第175回定時総会・渡鍵式	12月6日	総務・広報委員会



第37回全国城下町シンポジウム松江大会



第44回島根ブロック大会



第64代理事長

福島丈太郎 君

昭和56年1月9日生まれ
㈱太陽水道工事
代表取締役

- ▶ 日本JCスローガン：共に心躍る未来へ「やりましょう！」
- ▶ 松江JCスローガン：継続～千里の道も一歩から～
- ▶ 正会員数：38名

役員

- ▶ 直前理事長：古藤雅之
- ▶ 副理事長：石倉達也 小林正康 持田寿人 樋口拓磨
- ▶ 専務理事：石倉英弥
- ▶ 理事：林 法正 田邊 亮 岩崎春樹 中村友樹 影山瑛一 内田浩平
福原一裕 佐藤友馬
- ▶ 監事：天野正道 本庄雅樹 内部高志

今年度は30年にわたる平成の時代が終わり令和の新時代の幕開けとなりました。また、働き方改革が本格的に始動し、10月から消費税10%へ増税となりました。島根県では新たな島根県政が始動し、松江市では10年に一度のホーランエンヤが行われるなど、今年度は変動の多い年になりました。

そんな中、私たちは『継続』～千里の道も一歩から～のスローガンのもとで運動を行ってまいりました。この継続は惰性という意味の継続ではなく、集中と選択を行い、事業・活動の量より質を大事にし、これからの新たな時代にあったJCの継続性のある事業・活動を生み出すと言う強い気持ちで今年度1年間行って参りました。

1. 松江だんだん

今年度の松江だんだんは5年ぶりに松江市役所前駐車場へ会場が戻り、賑やかな景色を2日間にわたり見ることが出来ました。また、市民のニーズに応えるまつり、新たなニーズの創出、地域に広がるまつり、きれいなまつりの4本を柱とし、賑わいの創出に注力しました。水郷祭の企業募金が集まりにくいと報道がある中でも、我々は過去の募金額よりも更に上回る募金額を集めることができ、何より、日立製作所様はじめ関係諸団体の皆様に満足頂けたことも、市民の為の松江だんだんが行えた結果であると感じております。

2. 松江の未来を創造する

日本全国各地が抱える人口減少の問題に真正面から向き合っていました。今まで難しかった高校生の募集に成功し60名を超える学生に参加して頂きました。参加した学生には人口減少問題は、間違いなく自分達の周りで起こっていることであり、生まれ育ったこの松江に対しての愛着を肌で感じてもらう良いきっかけになったと思います。

また、松江市と共同制作アプリ『松江ファンクラブアプリ』の中に、学生の意見を取り入れる事もでき、参加して頂いた学生だけではなく、この事業を通じて松江市、島根県、学校関係、PTAなど様々な方と『まつえの未来にカケル想い』を共有できたと実感しました。

3. 会員拡大の推進

一人が一人を拡大するという目的のもと1年間全員で拡大を行って参りました。新たに入会して頂いた会員の皆様は積極的に事業に参加して頂き、早々に戦力になっていただいている事を大変うれしく思います。

研修に関しても「私達は何のために運動をしているのか」ということを常に追求し、次世代を担う会員の資質向上に繋がっていることは大変良かったと感じております。

4. 国際交流を通じて地域の発展

Hanoi JCと覚書締結まで事業が進んだことに先ずは素晴らしい結果を出して頂きました。ASPAC 済州大会でのHanoi JCとのFirst Impactから始まり、両国を行き交いお互いの国を知り、交流の末に姉妹JC締結への第一歩が踏み出せました。

国際交流事業を積極的に行って来た今までの功績のもと、松江JCビジョン・松江JCミッションを制定してようやくここまで辿り着いたことは感慨深いものがあり、Hanoi JCとの交流を最大限に生かし、これからも継続的に国際の機会に触れる事業を展開してまいりましょう。

5. 公益社団法人として

公益事業を行っていく上でより多くの人へ広報するという事の重要性がわかる1年でありました。多種にわたる広報のツールを上手く利用し、たくさんのリアクションを頂けたことは今後も引き継いで頂きたい事項であります。

また、60周年に定めたこの松江JC Vision・松江JC Missionの検証を行い65周年に向けての松江青年会議所の歩みを確かにする道筋が示されました。

6. 出向者・充職者の活躍、支援について

今年度も松江青年会議所より多くの出向者・充職者に出で頂き、ご活躍頂きました。LOMの看板を背負い各地でご活躍いただき、LOMの中では学ぶことの出来ない様々な事を持ち帰って頂きました。出向者に対しては出向者の事業に参加することが支援になります。また、逆に多くの出向者を輩出できるのもLOMあっての事と感じております。



主な活動一覧

	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会（賀会例会） 始動 ～継続に向けた第一歩～	1月9日	松江だんだん委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会 第176回定時総会	2月14日	総務・広報委員会
3月度例会 【対内事業】	3月度例会 松江異業種交流会 全員拡大～松江の未来に繋がる JC運動のために～	3月14日	会員拡大・研修委員会
4月度例会 【対外事業】	4月度例会 松江青年会議所がつなぐ、松江と世界の架け橋 インアイリッシュフェスティバル2019	3月9日、 3月10日、 4月18日	国際交流委員会
5月度例会 【対内事業】	5月度例会 第45回島根ブロックスポーツ大会 友情はぐくむ島根の未来	5月19日	松江の未来創造委員会
6月度例会 【対内事業】	6月度例会 未来をつくるために、今から考える	6月13日	総務・広報委員会
7月度例会 【対外事業】	7月度例会 MATSUE 7 フェス×（カケル）プロジェクト ～まつえの未来にカケル想い～	7月13日	松江の未来創造委員会
8月度第1例会 【対外事業】	松江水郷祭 湖と緑のフェスタ 松江だんだん2019 全てはこのまちの笑顔の為に～花火とともに輝くまつえ～	8月3日、8月4日	松江だんだん委員会
8月度第2例会 【対内事業】	8月度第2例会 第177回定時総会	8月22日	総務・広報委員会
9月度例会 【対外事業】	9月度例会 ～ベトナムフェス～ “縁” ハノイと深める友情の絆	9月29日	国際交流委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会 第63回JCデー ～絆～ 輝く未来へ	10月1日	会員拡大・研修委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会 2019年度（公社）松江青年会議所卒業式 新たな旅立ち～続く道～	11月16日	松江の未来創造委員会
11月度例会 【対内事業】	2019年度（公社）松江青年会議所卒業式祝賀会 有終の美～新たな門出～	11月16日	松江だんだん委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会 第178回定時総会・渡鍵式	12月5日	総務・広報委員会



“縁” ハノイと深める友情の絆



MATSUE 7 フェス×(カケル)プロジェクト ～まつえの未来にカケル想い～



主な活動一覧

	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会（賀会例会） 一致団結	1月9日	65周年準備委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会 第179回定時総会	2月20日	総務・研修委員会
3月度例会 【対内事業】	3月度例会	3月14日	松江だんだん委員会
4月度例会 【対内事業】	4月度例会 外国人に選ばれるまち 松江	4月14日	国際経済交流委員会
5月度例会 【対内事業】	5月度例会 Next step!! ～我々に、今、求められること～	5月21日	65周年準備委員会
6月度例会 【対内事業】	6月度例会 今だからこそ一致団結	6月26日	総務・研修委員会
7月度例会 【対内事業】	7月度例会 JCメンバーとしての帰属意識を高めよう	7月16日	国際経済交流委員会
8月度例会 【対内事業】	8月度例会 第181回定時総会	8月20日	総務・研修委員会
8月度委員会事業 【対外事業】	8月度委員会事業 災害に打ち勝つ松江を！	8月22日	国際経済交流委員会
9月度例会 【対内事業】	9月度例会 これからの5年間について	9月17日	65周年準備委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会 再始動ーみんなでもう一度 JC感覚を取り戻そうー	10月1日	総務・研修委員会
	第64回JCデー	10月1日	拡大推進会議
11月度例会 【対内事業】	11月度例会2020年度（公社）松江青年会議所卒業式典 ～友情・縁～今までも、そしてこれからも	11月14日	65周年準備委員会
	2020年度（公社）松江青年会議所卒業式祝賀会 一言報恩～感謝の思いを込めて～	11月14日	松江だんだん委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会 第181回定時総会・渡鍵式	12月10日	総務・研修委員会



GENKI夜市



中期計画“Joyn”to MATSUE!!



Next creative positive change

～受け継ぐ想いを更なる高みへ～

記念事業

Sustainable Space in 島根町

とき/2021年7月24日【土】・25日【日】

ところ/松江市島根町 旧野波小学校

記念講演

とき/2021年10月16日【土】

ところ/くにびきメッセ (WEB 配信)

記念式典

とき/2021年11月14日【日】

ところ/ホテル一畑



▶ 2021年7月24日【土】・25日【日】 松江市島根町 旧野波小学校

本年、松江青年会議所は人口減少問題に立ち向かうべく「関係人口」を創出する取り組みを行いました。

7月24・25日の1泊2日型の事業で、島根町にある廃校の旧野波小学校を舞台として「2021 JCI Matsue presents Sustainable Space in 島根町」を開催致しました。

地元有志・企業・行政の方と共に事業構築を行い、パートナーとしてアウトドア用品メーカーの株式会社スノーピークビジネスソリューションズ様にご協力をいただくことができました。県外からの関係人口予備軍の皆様をご招待して、1日目はテントの設営体験や島根町の魅力体験ツアー、地元や行政の方との焚き火を囲んでの地域交流会を開催致しました。2日目は体験モデルの方に、「島根町の魅力・課題・何ができるか」の三つをテーマに松江市の上定市長や、傍聴者の皆さんに向けて発

表を行いました。

その後、上定市長、株式会社スノーピークビジネスソリューションズの山本様、野々村理事長の三者でパネルディスカッションを開催し、三者の目線でこのまちの将来や可能性について議論していただきました。

事業を通じて、協力者やディスカッション参加者には未来への可能性を感じていただくことができました。また体験モデルの方には、松江市や島根町の魅力を体験したことで、継続的に関わりたいとのご意見をいただき、事業後もつながりを持ち、松江と関わっていただく「関係人口」を創出することができました。

今後も松江青年会議所は、松江で暮らす当事者として人口減少問題や地域の課題解決に向け精一杯活動して参ります。





▶ 2021年11月14日【日】 ホテル一畑

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会宣言 2. 国歌斉唱 3. JC ソング斉唱 4. JCI クリード唱和 5. JCI ミッション並びに
JCI ビジョン唱和 6. JC 宣言朗読並びに綱領唱和 7. 松江JC ビジョン並びに
松江JC ミッション唱和 8. 物故会員追悼 9. 来賓紹介 | <ol style="list-style-type: none"> 10. 理事長挨拶 11. 来賓祝辞 12. 祝電披露 13. スポンサー JC への感謝状贈呈 14. スポンサー JC からの記念品拝受 15. 第61代～65代理事長への感謝状贈呈 16. 2016年からの軌跡 17. 次代の松江に対する提言 18. 閉会宣言 19. 記念アトラクション 20. 実行委員長御礼 |
|---|---|

11月14日、ホテル一畑平安の間にて、公益社団法人松江青年会議所創立65周年記念式典を執り行いました。この度の記念式典は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、一堂に会しての実施は断念し、撮影した映像を配信するという形で実施をさせていただきました。

樋口実行委員長の開会宣言に始まり、理事長挨拶では、第66代 野々村理事長より、「現在はコロナ禍という苦しい状況に立たされているが、65年という長い歴史の中では、このような苦しい状況が他にもあったのではないかと。その苦しい状況を乗り越えて今現在まで、この松江青年会議所が継続できているのは、ご来賓の皆様をはじめ、先輩諸兄や各地会員会議所のメンバー、関係各位の皆様のお陰である」と感謝の意をお伝えしました。

また、スポンサー JC であります、一般社団法人広島青年会議所へ感謝状を贈り、感謝の意を表しました。一般社団法人広島青年会議所からは記念品を拝受し、この65周年を皮切りに更に力強く繋がっていくことをお約束しました。そして、2016年～2020年の歴代理事長の皆様には感謝状を贈り、秋鹿修先輩より、ご祝辞と激励のお言葉を頂戴いたしました。

「次代の松江に対する提言」では、次の5年、70周年を見据えてどのような運動を展開していくのか、そのために必要な中期計画を発表するとともに、その中期計画を実現するための提言を行いました。

この記念式典を通じて、これまで永きに渡り松江の礎を築いてこられた先輩諸兄や、各地会員会議所のメンバー、関係諸団体の皆様へ感謝と敬意をお伝えし、70周年、更には100周年へと、受け継いできた想いを更なる高みへと昇華させていくことをお誓いすることができました。



来賓祝辞 丸山 達也 様



理事長挨拶 野々村健志 君



開会宣言 樋口 拓磨 君



61～65代理事長へ感謝状贈呈



立正大学淞南高校マーチングバンド部によるアトラクション

次代の松江に対する提言

創立65周年を迎え次の5年、70周年を見据えて、どのような運動を展開していくのか、そのために必要な中期計画を策定いたしました。その中期計画とは、「Joyn to Matsue」です。「Joyn」とは「Joy」の喜びと「Join」の結び付けという意味の造語で成り立っています。

松江が既に持っている観光資源や環境資源、そういったものに新しく加わってくる文化などを効率的に、有機的に結びつけることでさらに良い松江を作っていく。そして、そこには必ず喜びが入ってくる。そういった意味を込めてこの中期計画を策定いたしました。

そして、この中期計画を具体的に策定し、進めるうえで3つの小テーマを設けました。一つ目は「Joyn People」継続的なパートナー関係の創出。二つ目に「Joyn us」会員数の拡大。三つ目に「Joyn World」関係人口モデルの創出です。70周年を見据えた5ヶ年の1年目となる今年、これらの中期計画を実現するために色々な事業を行って参りました。

① 継承と昇華

この度、松江青年会議所は創立65周年を迎えました。創立から現在に至るまでの、連綿と受け継がれてきた“想い”を継承して、次の時代を切り開くために、松江の未来を担う全ての人に向けて、創立65周年記念事業として、「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!」、「笑ってはいけないシリーズ」などの数多くの人気番組を手がけられた、テレビプロデューサーの菅賢治様をお招き致しました。

中期計画のJoyn usとして、我々と同じ志を持つことができる同志を増やすため、記念講演を通じて参加者に対して、松江の新たな可能性を創造するきっかけを提供致しました。我々には、我々と同じ志を持つ人を増やすために、今後も事業を展開してまいります。

② 関係人口の創出

日本の最重要課題の一つでもある人口減少問題。我々が住む島根県においても、特に中山間地域の人口減少が顕著となっています。そこで松江青年会議所では人口減少問題の解決として注目されている関係人口に着目しました。関係人口には明確な定義がありません。なので多種多様な関わり方が出来るのです。

65周年記念事業として松江市島根町で関係人口創出事業「2021 JCI Matsue presents Sustainable Space in 島根町」を開催しました。スノーピークビジネスソリューションズ様とタグを組み、県外からお招きした関係人口予備軍の皆様にご滞在2泊2日のスケジュールで島根町の魅力を余すことなく感じて頂きました。

松江市の上定市長や行政関係者、地元企業、地元住民の方々をお招きして、関係人口予備軍の皆様が本気で考えた【この町でなにができるか】をテーマにした将来ビジョンを聞いて頂き、松江市島根町の新しい未来を描いてもらいました。

中期計画のJoyn Peopleとして、株式会社スノーピークビジネスソリューションズ様や行政機関など、事業継承を見据えた継続的なパートナー関係の構築に努めました。またJoyn Worldとして、地域資源を活用した、地元住民や行政の協力による関係人口創出の拠点づくりを行い、譲渡できる関係人口関連事業構築にも努めてまいりました。

今回の事業を機に関係人口創出の可能性を行政、地元企業、そして地元住民の方々にお見せすることが出来ました。松江青年会議所は今後も関係各所との関係性をさらに強化し、関係人口創出に向けてさらに邁進してまいります。

③ 水都松江の創出

これまで松江青年会議所は、2016年に開催した創立60周年記念事業であるまつえ水都祭から、継続的に松江の豊かな水辺の利活用に取り組んでおります。また、SUP世界大会の誘致も目標に掲げております。今年の5月には、宍道湖の岸公園でSUPフェスを開催し、SUP体験やSUPレースなどに約400名の市民が参加されました。

中期計画のJoyn Peopleとして、SUPボードブランドのスターボードジャパン株式会社様や、SUPボード

販売店のサーフアップ島根店様、ミスベリキング松江協議会様など、事業継承を見据えた継続的なパートナー関係の構築に努めました。今後も、我々は水都松江の創造に注力してまいります。

④ 同志の拡大

松江青年会議所が設立されて以来、途絶えることなく継続している運動があります。それが、会員拡大です。

我々JCの使命である、JCI Missionに「より良い変化をもたらす力を青年に与えるための機会を提供すること」とあります。我々は明るい豊かな社会の実現の為に日々運動を行っていますが、誰もが最初からその目的で入会しているわけではありません。殆どのメンバーはあくまで自分自身の為に入会してきます。そしてJC運動を続けるうちに、松江のためや、誰かのためを考えるようになり、それこそが自分自身の為になると思い、行動するようになります。つまり我々は価値観から変わっていったのです。

JCは最後の学び舎と呼ばれることがあります。リーダーシップ、目的意識、議案作成、JCで得ることの出来る学びの機会は様々ありますが、この価値観の変化「positive change」が最大の学びです。

自分自身の為しか考えてなかった青年がまちの為、社会の為を考えるようになる。これこそが明るい豊かな社会の実現に向けた運動の根幹であり、会員拡大運動を継続して行っている最大の理由です。すなわち我々の会員拡大は会の為の拡大ではなく、松江の未来の為に会員拡大です。会員拡大こそJC運動である。

私たち松江青年会議所はこのまちのために、更なる会員拡大運動に努め、次代の青年により良い変化をもたらす、Next creative positive changeを行ってまいります。

⑤ 松江の魅力の発信

当事者意識を高め、地域の課題解決に取り組む意識が市民やまちへと伝播すれば、より素晴らしいまちへ導くことが出来ます。我々松江青年会議所の運動、この松江の魅力を、様々な媒体を活用し、多くの方に継続して伝えていくことで、我々に対する認知度を高め、存在意義を確立すると共に、松江のファンを増やし、多くの波及効果をもたらしていきます。

松江青年会議所は、2022年度、35年ぶりに中国地区コンファレンスを主管、開催します。中国地区各地の青年達が一堂に会するこの大会は、松江の魅力を発信する絶好の機会でもあります。この機会を最大限活かすべく、人口減少問題の解決の糸口として注目される関係人口の創出をはじめ、産官民と連携していくことで地域経済の活性化にも寄与出来るよう大会を構築していきます。「人」と「人」が繋がることで大きな推進力を生み出し、歴史、伝統といった松江ならではの良さ、新しく生まれた文化を効果的に結び、次代へ向けて新しい価値を創造し、このまちの魅力を多くの方に伝えていきます。

褒賞受賞歴



- | | | | |
|------|--|------|--|
| 1966 | 優秀JC 賞受賞
(第15回中国地区会員大会)
市民憲章制定。県民会館建設推進などが評価された。 | 1978 | 広報活動推進賞
(第27回全国会員大会)
宍道湖大橋の無料化をめざしての対外広報活動など、積極的な対外キャンペーンの展開が評価された。 |
| 1968 | 優秀委員会賞
(第17回中国地区会員大会)
松江 OAA の結成などが評価された。 | 1980 | 青少年開発推進賞最優秀賞
(第29回中国地区会員大会)
中学生「沖縄洋上セミナー」を通じてのジュニアリーダーの育成などが評価された。 |
| 1969 | 青少年問題最優秀賞
(第18回中国地区会員大会)
「21世紀の文明を創る教育のビジョン」討論会。青少年のためのチャリティーショー「宝塚歌劇」などが評価された。 | 1981 | 福祉開発推進賞最優秀賞
(第30回中国地区会員大会)
「松江わたぼうしコンサート」などの活動が評価された。 |
| 1971 | 社会開発推進賞最優秀賞
(第20回中国地区会員大会)
交通問題、都市交通問題に対する積極的な取り組みが評価された。 | 1984 | 自由部門最優秀賞
(第33回中国地区会員大会)
12年間にわたる「かけがえのない郷土シリーズ」による地域への提言が評価された。 |
| 1972 | 指導力開発優秀賞
(第21回中国地区会員大会)
松江を美しくする運動等を通じて市民の組織化などの活動が評価された。 | 1987 | 優秀青年会議所賞
(第36回中国地区会員大会)
30周年記念事業から生まれた、新しい「まちづくり」への発想と、その展開が評価された。 |
| 1973 | 最優秀賞環境問題賞
(第22回中国地区会員大会)
「水」「緑」「美化」のプロジェクトチームを編成し、市民運動の展開などの活動が評価された。 | 1988 | 広報活動推進賞
(第37回中国地区会員大会)
まちづくりのためのひとづくり「まちづくりプロジェクト」が、郷土愛の醸成へ向けて「松江余談」を刊行した事が評価された。 |
| 1973 | 優秀賞広報活動賞
(第22回中国地区会員大会)
干拓問題の世論喚起、青少年グループの育成などの活動が評価された。 | 1992 | 地域づくり推進賞
(地区フォーラム)
行政の枠組みをこえた活動としてインフィニティーネットワーク構想を打ち出した事が評価された。 |
| 1974 | 指導力推進最優秀賞
(第23回中国地区会員大会)
JCC スクール開校などが評価された。 | 2009 | 会員拡大事業グループグランプリ
(中国地区第3回会員会議所会議)
年間を通して13名をJCへ入会した事が評価された。 |
| 1974 | 広報活動最優秀賞
積極的な対外広報活動を評価された。 | 2012 | 人材育成事業部門優秀賞
(中国地区コンファレンス2012)
「粋な大人の OMOIYARI 講座」による人材育成について評価された。 |
| 1975 | 最優秀賞広報活動賞
(第24回中国地区会員大会)
かけがえのない郷土シリーズなどの広報活動が評価された。 | 2013 | 人材育成事業部門優秀賞
(中国地区コンファレンス2013)
松江JC地域づくり講演会「地球を元気にまいどスピリッツに学ぶ！」の人材育成について評価された。 |
| 1976 | AOY (青少年計画) 推進賞
(第25回中国地区会員大会)
第1回市民のつどい、オリエンテーリング大会、松江市青年団体育成基金の条例化などが評価された。 | 2017 | 2017年度全国城下町青年会議所連絡協議会アワード発表 優秀賞受賞
「創立60周年記念事業まつえ水都祭2016」 |
| 1976 | 自治行政推進賞
(第25回全国会員大会)
地方財政見直しキャンペーン、地方財政をテーマにシンポジウム開催などの自治問題への積極的な取り組みが評価された。 | 2017 | 2017年中国地区褒章事業 LOM・国際開発部門 優秀賞受賞
「水燈路関連事業「Let's 緑joy YAKUMO festa ~八雲が繋ぐアイルランドとの縁」 |
| 1978 | おまつり推進賞
(第27回全国会員大会)
「松江だんだん」を通してのコミュニティ作り、市民総参加への働きかけが評価された。 | 2019 | CHUGOKU AWARD 2019 SDGs 未来都市部門賞受賞
(中国地区コンファレンス2019)
「外来種からみんなで守ろう！馬洗い池水抜き救出大作戦」 |

編集後記

はじめに、公益社団法人松江青年会議所創立65周年記念誌発行に際しまして、原稿依頼に御寄稿いただきました皆様に、心よりの御礼を申し上げます。お陰様で無事、記念誌を発行することができました。

この度の記念誌を発行するにあたり、65年の永きに渡る先輩諸兄姉の素晴らしい運動の軌跡、そして努力の賜物、そういったものを改めて感じさせていただく大変貴重な機会となりました。紙面の都合上、掲載することができなかった多くの事業を割愛させていただきましたこと、深くお詫びを申し上げます。

創立65周年記念誌が、創立65周年のスローガン「Next creative positive change～受け継ぐ想いを更なる高みへ～」のもと、明るい豊かな松江の創造の一助となりますことを切に願っております。

末筆ではございますが、この度の記念誌発行にあたり、編集にご協力をいただきました全ての皆様に対しまして、心より御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

公益社団法人松江青年会議所
65周年実行特別委員会

幹事 櫻井 圭太

松江青年会議所創立65周年記念誌

発行／2021年11月30日

発行所／公益社団法人松江青年会議所
理事長 野々村健志
島根県松江市母衣町55-4 7階
TEL(0852)21-9917
FAX(0852)26-3119

編集／65周年実行特別委員会

実行委員長：樋口 拓磨
副実行委員長：錦織 讓
幹事：櫻井 圭太
副幹事：日野 翔太
副幹事：宮田 佳祐
委員：田邊 亮
委員：持田 寿人

